

## 私が記者なら

聞き手・朝日新聞政治部

官房長官に留任した時点での新聞記者に対する  
珍しい感想。記者会見の効用、新聞辞令の問題  
から若い新聞記者についてまで、軽妙に論じる。

### 淡々といききたいね

実はわたしもびくびくしとったんだが……ええ、そう、長官になる時ですな。なにか、こうエライ  
圧力がかかるんじゃないか、とね。とにかく新聞記者はたいへんな力を持つてるんだから、その点は  
権力者と似たもので……。こわいんですなア、みんな。ところが、そのウ、なってみると、みんな実  
にキレイなんですな、いや驚きました。

（大平長官、五十一歳、八十五キロ。池田さん好みの『庭石』のような体つき。「アー」とか「エー」  
とか連発しながら考え、考え、しゃべる。記者仲間でも『慎重居士』との定評。アダ名は『おとう  
ちゃん』）

記者会見ですか、あれは勉強になりますなア。苦痛と思ったことないです。質問に答えながら考えも整理できるし、こつちの氣づかんことも教えてくれる、アッ、あしたはあれをしなきゃいかんなどと思ひださせてくれたりね。まア、毎日のおサライですな。こつちばかり損するってことないです。

(官房長官との記者会見は何もなくとも一日に四回。午前十時半、正午、午後四時半、それから夜自宅に帰って十時半からミツチリ一時間。三十人あまりの各社政治部記者に包囲されて、質問せぬにあつ)

ただ、あの『夜まわり』(政治家、役人などが夜、自宅に帰ってからたずねる取材方法)ね。まア、朝刊の締め切りまでに事態が進展するんだから、ぜんぜんやめることも不可能でしょうが、できたら時間を決めてもらうことにした方がいいな。なんと言いますが、その『生活のリズム』の中に入れて頂きたい。いや、私こんな笑いながらしゃべっていますかね。記者諸君と会う時はいつも真剣勝負の氣持ちですよ。ほんとのところ。

(首相官邸二階の長官室。だだっ広くてうす暗い。苦勞しているカメラマンに同情してか、秘書課の女の子が大きなスタンドをそばに持ってきてくれた。ねらいつつけるレンズを氣にして不意に

「え? どうすればいいの?」 カメラマン、あわてて「いや、そのままどうぞ」)

それから、これはまア、新聞だけじゃなく日本の社会全体に通ずるアレですが、なんかこつ淡々といかぬことがありますなア。公定歩合の問題にしても「あれは内閣でウンヌンすることじゃない。日銀と大蔵省にお任せしてある」といつてるのに、毎日、同じことをシメジメと聞かれる。こちらがそう言ったら、それはその一回かぎりで勝負、ということに願えませんかね工。(任せたと云っても総理が指示してる、とカンぐるのは当然ですよ、と切りかえずと)まア、それはお互いの信頼の問題ですなア。

新聞の偏向？ いや、それはない。これはヒジョウウにない（この人の口くせ？）。私がしゃべったことがどう出てるか。これは毎日気をつけて見てるんですが、意図をもってネジ曲げた、という記事はないな。わたしの知っている限りでは非常にフェアです。ただ困るのは人事ですな。先に名前を出されると、その人に罪はないのに「あいつ、事前に運動したな」とか、ね。邪推されて、かえってそのポストがダメになることがある。これは気の毒ですな。固有名詞は最後にお願ひしたい。あれは悪い習慣ですよ。え？ 党の一部が意識的に情報を流す？ それも悪い習慣ですな、ワッハッハ……。

それと欲をいえば教養的な面にも、もう少し力を入れてもらいたいな。わたしら政治のことは知っているが、宗教、歴史、芸術なんかには暗い。新聞だけ読んでは十分、という具合に願ひたいな。それにスポーツ面ね。大きく出てるが、あのスペース、もったいないですな。記録と勝敗だけでいい。

しかし、最近の記者のひとは優秀ですな。いや、もちろん昔からそうでしょうが、最近はとくにいい人がはいっている。たとえ三十歳前後の自分が記者になったとしても、果たしてこれだけの事実の究明力、表現力をもてただろうか。これは負けるのかいなア。そういう感じですよ。……ちょっとホメすぎたかな。ま、いいでしょ、新聞週間だ、ワッハッハア。